

国登録有形文化財

# 有田家住宅

## 主屋・土蔵

登録年月日：平成31年3月29日

所在地：藤沢市大鋸三丁目

所有者：個人

構造・形式・建設の年代：

主屋 木造平屋建 瓦葺 建築面積98㎡

昭和6年上棟

土蔵 土蔵造2階建 金属板葺 建築面積37㎡

大正12年／昭和2年増築

有田家は、旧東海道の一里塚跡に隣接し、道の対岸には清浄光寺遊行寺（遊行寺）の境内があるなど、歴史ある地域に所在し、農業を営むかたわら遊行寺の職方等を務めたと伝わる。

現存する主屋は伝統的な民家に近いが、妻入で土間が狭く、廻り土間形式を採る点は町家的で、近世の藤沢宿の後背地であった大鋸地区の性格を反映する。

土蔵の規模や外観は農家の家財蔵として典型的だが、構造技法に進化がみられ、震災前の建築でありながら進歩的な家風を窺うことができる。

※非公開、イベント時には一般公開あり



主屋（奥）と土蔵（手前）

土蔵の完成は関東大震災の直前に当たる。旧藤沢町は、震災の被害が極めて大きく、有田家の土蔵は震災に残った貴重な建造物である。



主屋 木造平屋。屋根は、寄棟造り・棧瓦葺で、四周に奥行半間の垂鉛鉄板葺の庇を巡らす。



土蔵 正面に奥行1間の深い庇を設け、東側に1間半×1間半のミソグラを下屋で張り出す。

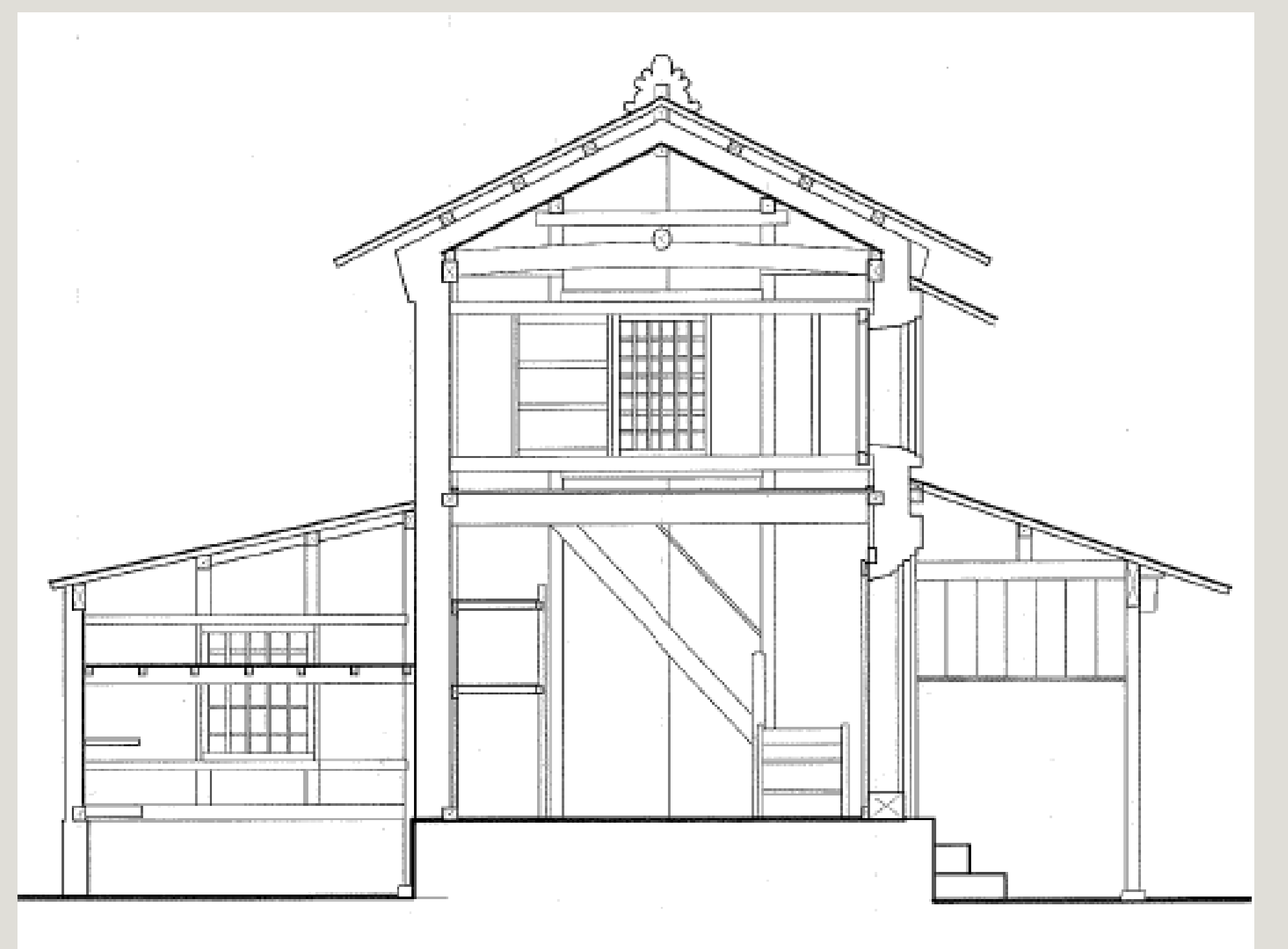


土間 正面から東面にL字型に配する廻り土間形式で、幅が半間と狭く、東面に内玄関と勝手口を設ける。



主室

床の間・違棚・平書院を備え、長押を廻した正式な作りで、次の間との部屋境に腰障子・箆欄間を入れて南面からの採光を意図する。玄関や南・西面の側廻りに硝子欄間を入れ、六畳に天窓を備えるなど採光への意識は高く、また次の間の西面を全て押入とし、六畳に仏壇を組み込んだ物入を設けるなど収納も充実している。



土蔵 断面図

『藤沢市・旧藤沢宿歴史的建造物調査報告書有田家土蔵（2012年3月）東海大学工学部建築学科 教授 小沢朝江』より引用。

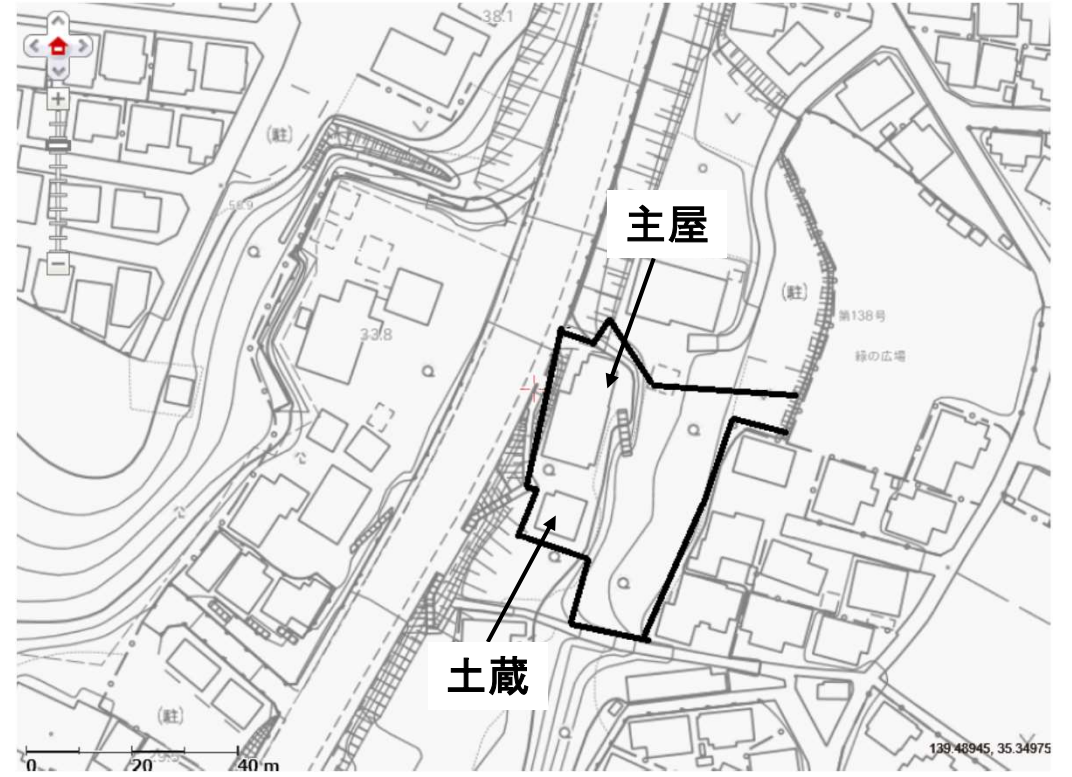


↓土蔵



↓主屋

黒枠が寄附範囲



主屋

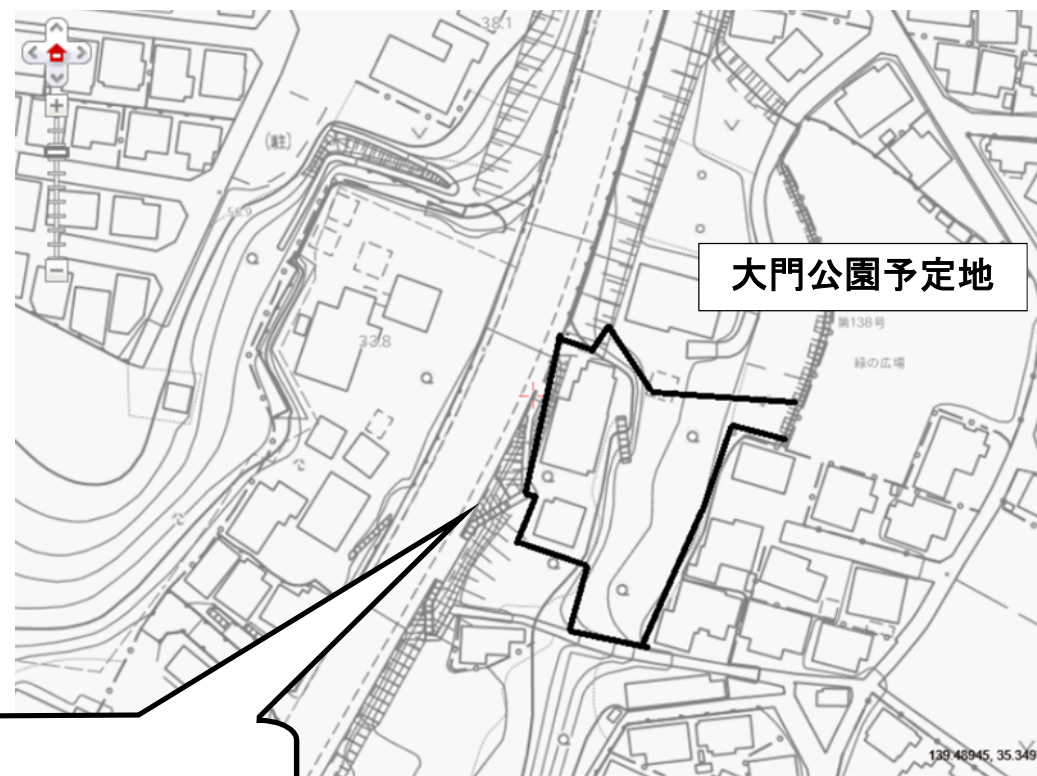
土蔵

- 第一種低層住居専用地域に所在  
(現在の用途では内部活用が困難)



有田家住宅 進入路現況写真  
(令和4年度中に手摺設置予定)

寄附予定地の北東に大門公園の予定地が隣接している



139 48945, 35.34975